

## これまでの取り組みにおける受賞報告

### 1. ベーテル麻機部会が「グリーンレジリエンス大賞」の最優秀賞を受賞しました

「一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会（会長：三浦惺、日本電信電話株式会社取締役会長）」が主催する、「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）2017」に新設された「グリーンレジリエンス大賞」に、ベーテル麻機部会が応募しました。

平成 29 年 3 月 15 日に東京で開催された「ジャパン・レジリエンス・アワード表彰式」にて結果発表が行われ、ベーテル麻機部会は、これまでの取り組みが評価され、最優秀賞を受賞しました。（グランプリ：1 団体、金賞：1 団体、最優秀賞：4 団体）

#### ■グリーンレジリエンス大賞とは

グリーンレジリエンスとは、近年、注目が集まりつつある「グリーンインフラ（Green Infrastructure）」や「生態系を活用した防災減災（Eco-DRR）」を含む、自然資本を活用した次世代型社会資本整備を進める新たな社会的概念であり、自然のあらゆる資源や仕組み、機能を効果的に活用し、国土強靱化や地方創生に貢献する事業・活動を指します。

一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会は、グリーンレジリエンスとして、先駆的な取り組みをしている活動・事業を表彰するため、「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）」に「グリーンレジリエンス大賞」を新たに創設いたしました。

#### ■評価項目

- ・自然資源を持続可能な形で効果的に利活用を進めながら、自然の持つ多面的機能（公益的機能、生態系サービス等）を多様な領域、幅広い空間に波及させる事業・取組。
- ・地域内外の多様な主体と連携・協働を円滑に進める社会的な仕組み（プラットフォーム、組織等）が構築されている事業・活動である。
- ・地域や地球環境保全への貢献、地域資源の再発見・再利用、伝統的な文化、技術・の伝承など、地域固有性の高いグリーンレジリエンスの特徴的な事業・活動である。

#### ■「グリーンレジリエンス大賞」発表、表彰式の様子



## 2. 静岡北特別支援学校が「日本水大賞」の文部科学大臣賞を受賞しました

日本水大賞委員会、国土交通省が主催する、「第19回日本水大賞」に、静岡北特別支援学校が、『地域と歩む麻機遊水地保全活用プロジェクト「麻活」』の取組みで応募し、文部科学大臣賞を受賞しました。

表彰式・受賞活動発表会は、7月11日（火）に東京の日本科学未来館で行われます。

### ■日本水大賞とは

日本水大賞は、21世紀の日本のみならず地球全体を視野に入れて、水循環の健全化を目指し、美しい水が紡ぎ出す自然の豊かさの中にも水災害に対して強靱な国土と社会の実現に寄与することを目的としています。

水循環系の健全化や水災害に対する安全性の向上に寄与すると考えられる活動で、水防災、水資源、水文化、復興などの諸活動（研究、技術開発を含む）が対象となります。

主 催：日本水大賞委員会、国土交通省

名誉総裁：秋篠宮文仁親王殿下

委員 長：毛利 衛（日本科学未来館 館長）

副委員長：虫明功臣（東京大学名誉教授）

後 援：環境省、外務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、読売新聞社、在日本スウェーデン大使館 他

受賞内容：大賞（グランプリ）、大臣賞（国土交通大臣賞、環境大臣賞、厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、文部科学大臣賞、経済産業大臣賞）、市民活動賞（読売新聞社賞）、国際貢献賞、未来開拓賞、審査部会特別賞、タイムリー賞



### ■受賞理由

静岡北特別支援学校は、小学校1年から高等部3年までの、知的障害のある児童360名が在籍します。学校は、日本重要湿地に指定されている麻機遊水地群の中央にあり、2014年から、遊水地群をフィールドに、自然再生、環境保全、治水・防災等の切り口から、教育活動を行なっています。ただの教育活動ではなく、地域住民・NPO・専門家・企業等で構成された「麻機遊水地保全活用推進協議会」に加盟し地域と協働した総合的な活動であること、活動が生徒の学習のみに留まらず、遊水地の自然再生、環境保全に結びついていること、刈り取ったヨシを紙等に製品化していること、知的障害者への偏見が解消されたことなど、素晴らしい成果を挙げています。

麻機遊水地を愛する活動に、障害者も健常者もなく地域住民と一体となり、いきいきとこの遊水地に関わっている様子が伺えます。同校の活動が地域住民に頼りにされている状況を高く評価し、文部科学大臣賞を授与することとしました。